

# ¡Hola, amigos!

第089号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする長い手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝04:00時から08:00時の間に実施します。

臨時休刊の場合は、なるべくその前の週にお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年12月09日 カァディスにてR y N

---

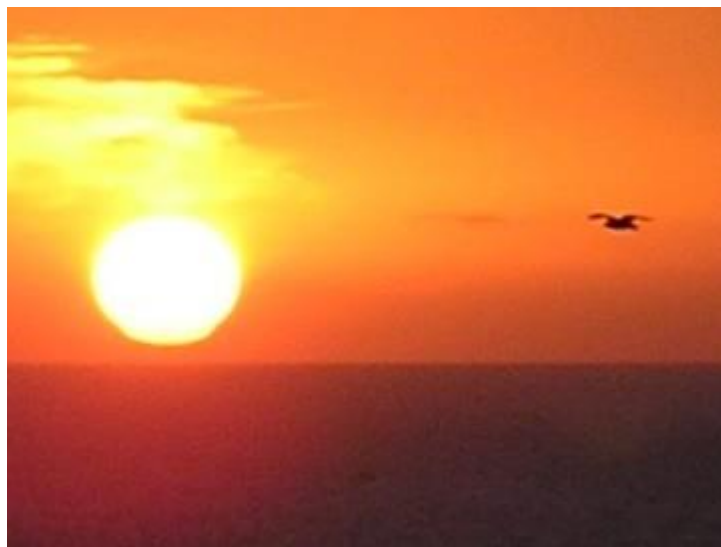
## ☆今週号のトップヘジャンプ

---

現在有効なバック・ナンバーは088号(12月02日)、087号(11月25日)

086号(11月18日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。

---



---

## 「密入国・交通事故」の巻

---

また、ポカをやりました。前号の「今週号」の号数・日付を88号・12月02日とすべきところを87号・11月25日としてしまいました。前々号の号数と日付をそのまま使ってしまったんですねー。どうも、PCのディスプレイ上でマチガイを見つけることが苦手です。アップロードしたアト、プリントしてもう一度校正しなおすんですが、ミスがポロポロあってイヤになります。本文の変換ミスは少なかったと思っただのに、肝心の号数・日付を見落としました。自分の過ちを見出すのは難しい。校正係もアテにはなんないしなー。

今年は12月に入ってもナカナカ天気が安定しません。去年はこんなではなかったと思います。だから、アンダルシアへの旅は12月がお勧めですよ、なんて言っていたのですが、コレは訂正しなくてはいけなくなりました。

そう言っていた理由は、まず、アンダルシアの大敵暑さから解放されること、秋口の不安定な天気も一段落すること、そして観光客が少なくなってホテルなどが安くなること、などでしたが、もう一度考え直してみなければなりません。

まず、ホテル。安くなるどころではかなり安くなるんですが、全てがソウとはゆかないようです。所によっては全然変わらないところもあるらしい。今まで知らなかった「12月の橋」もあることだし。要するに需要と供給のバランスの問題です。

今年の天気は10月末から今に至るまで余り芳しくありません。勿論快晴の日もあるんですが長続きしません。こうなると、4・5・6月と10月前半がいいかなとも思えますが、来年もソウだという保証は出来ません。何しろ世界中で異常気象が当たり前になってしまってますからね。



さて、今日の話題もあまり愉快なものではありませんが、このタイトルの二つもテレビ・ニュースの常連です。私達の生活には直接の影響はないとはいえ、頻りにテレビ画面に流れるとイヤでも記憶に残ります。

密航事件は私達が移ってきた3年前にも既に頻々と起きていました。その頃の多くは上の地図の左下の国 Western Sahara ウェスタン・サハラ又は Morocco モロッコからカナリー諸島の Fuerteventura フエルテベンツラ又は Lanzarote ランサローテへ小さなボートでわたってくる来る文字通りの「密航」だったのです。

去年はジブラルタル海峡を渡ってカアディス県の Tarifa タリファ周辺や、地中海を渡ってコスタ・デル・ソルを目指すケースが激増したようでした。

出発地は当然モロッコのどこかである筈ですが、密航者の国籍は色々らしい。テレビで見る密航者の顔つきも色々です。





カナリーへ渡るのは小さいボートでも比較的簡単ですが、渡った先が島なんですから働き口を探すのも地下に潜入するのも楽ではありません。だからうまく渡ってさえしまえばもぐりこみ易いだろうと直接本土を目指すようになったのでしょう。

2枚目の地図でスペイン南岸に赤のアンダーラインを引いた所、西から Tarifa タリファ、Motril モトリル、Almería アルメリアなどが頻繁にテレビに登場していました。その周辺に密航者のボートが流れ着くことが多かったのです。

ところが、今年夏前から「密航」という言葉が当てはまらない密入国、即ち国境を越えてくるケースが激増しました。上の地図で地中海の南、モロッコの海岸に赤の四角で囲んだ地名が二箇所ありますね。Ceuta セウタと Melilla メリージャです。この二つはモロッコ国内にあるスペインの飛び地で何かと問題になる土地です。

日本の市町村でも飛び地といわれる場所が所々あり、やはり色々不都合があるようです。ましてや違う国の中にある飛び地ですから両国の利害が複雑に絡み合い問題が生じるのは当たり前でしょう。私達もセウタには行ったことがありますが、イスラムの服装の男女がやたらに多く、街の雰囲気も一種異様なものでした。

モロッコ国内にあるこの二つの飛び地の国境は鉄条網を二重に張り巡らしてあるんで

すが、密入国者達は粗末な手製のハシゴを掛けて乗り越えてきます。多い時は数百人規模の団体国境破りで彼らがハシゴで乗り越えてくる現場の映像を何回も見ました。

日本でもこのニュースは取り上げられているようですが、私達の知っている場所へ続々と密入国者が入ってくる生々しい映像は甚だショッキングなものです。

こうした密航や国境破りをしてスペイン側で拘束された多くの不法移民の一部は、彼らの国籍に関係なくスペイン政府によりモロッコへ送還されたんですが、モロッコ政府は彼らの本国への送還もする一方で、一部のものを砂漠に置き去りにするなどして国連やEU議会でもスペイン・モロッコ両国の対応は大いに問題にされています。

こうした不法移民の国籍はモロッコや西サハラだけではなく、もっと南のマリ、ギニア、セネガル、モーリタニア、コートジボアールなど多くのアフリカ諸国に及んでいるらしい。これらアフリカ諸国からヨーロッパを目指す密航予備軍は、根底にある貧困と政情不安が除かれない限り増える事はあっても減る事は考えられません。

スペインが、アフリカから逃げようとする人たちにとってヨーロッパの玄関口になってしまうのは地理的に言って仕方のないことで政府は頭が痛いことでしょう。

スペイン国内にはこうした不法移民を安い賃金で雇って利潤を得ている業者もいるらしい。しかし、セウタやメリージャのように狭い土地ではウマク不法入国出来たとしても、その先はどうにもならない筈ですが何故其処を目指すのか。数百人単位というような大規模な国境破りや密航は、バックに不法移民を動かすマフィアが存在が指摘されています。皆だまされて来るんでしょうね。スペインの海岸近く迄密航者を運んだとされる船の船長が逮捕されたニュースもありましたが、ソレは末端の話で、大元には司法の手は届いていないようです。巨悪はシッポをつかまれナイのが常。

\*

楽しくない話題の連発で申し訳ないですが、次は交通事故のお話。私達もバスで移動する機会が多いので、現実には事故に巻き込まれないという保証はありません。高速道路での大きな交通事故のニュースにはあきれながらも見入ってしまいます。

救急車の担架でなく、いきなりカンオケが来てしまう事故現場というのは日本では余り馴染みがないですね。冗談ではなく、そういう映像を何回も見せられています。

バスの事故も多く、決して安心して乗れる交通機関とは言いがたいですが、この国で

自分の車を持たない人間にとってはバスは一番便利ですから仕方ありません。

3日から始まった大型飛び石連休「12月の橋」の間もまた各地で大きな交通事故が続いています。天気が良ければ人出が多くなり、それだけ事故の確率が大きくなるし雨が降れば降ったで、雪が降れば降ったで、スリップやら視界不良が原因の大事故がおきるのがいつもの例です。

私達もこれまで随分バス旅行をしましたが、その都度ドライバーの振る舞いにはヒヤヒヤさせられます。運転席の反対側の最前列の客が話し好きの人だったら要注意。

ドライバーは90度以上体をヒネってその辺の客とオオッパナシです。

日本なら、運転手に話しかけないでください、なんて張り紙も良くあるし、ソウでなくても、何かを聞かれたドライバーは「前を向いたまま」客に答えていますね。この「前を向いたまま」というのはどうやら日本人の特技らしい。スペイン人を含めて一般に西洋人は話す相手の眼を見て、又は少なくとも相手の顔を見て話すことが当たり前なのでしょう。ところが日本人は、相手、特に目上の相手の顔を直視してはイカンなんていう礼儀のあった国ですから平気で前を見たまま相手に答えられるのです。スペインのドライバー氏にはコレが出来ない。90度どころではなく180度近く体をヒネってでも相手を見てオハナシしちゃうんですねー。全く危ない話です。しかもドライバーに話しかける人のなんと多いことか。公共の交通機関であるバスのドライバーでさえコウですから、仲間同士や家族連れの楽しい車内がどういう状態であるか想像に難くありません。

昨日のニュースでもどこかの高速道で炎上したバスの映像が流れました。何がおきたのか知りませんが、乗客は全部路上に避難していたようです。バスの車体は外見では傷はないようでしたし周りに事故車もありませんでしたから、追突や接触事故が原因ではなく車内からの発火みたいでした。とにかく、バスに乗るのも命がけです。

この間、近距離バス（県内都市間）に乗っていたら、小柄なオーバーさんが乗り込んできて私達の席と通路を挟んだ反対側に座りました。この人は席に座るなり十字を切っていました。バスが走り出すと又十字をきっていました。余程信心深いのか、余程バスが信用出来ないか……。今度から乗ったら念仏でも唱えるところかな。\*\*\*

---

## 「秋の味覚」の巻

---

12月中旬になろうかという時に「秋の」でもないでしょうが、カアデイスの市場を見渡す限り、冬というより秋の感じが強いのです。

皆さんはどういう食べ物に「秋」を感じますか？ マツタケ？ そりゃ結構。でも、フトコロにはちょっぴり重いですね。秋刀魚？ これも大いに結構。それに財布にも優しい。しかし、残念ながらこのどちらも私達には手に入りません。

全般に市場の商品は四季を通じて余り大きい変化がないんです。魚は殆ど一年中同じものを売っています。肉屋にはもっと変化が見られません。しいて言うなら年末になると丸焼き用の子豚コチニージョ cochinitillo（離乳前の子豚）が並ぶことぐらい。勿論、これは私達の眼で見て、の話でスペインの人たちにとってはもっと細かく季節の変化を感じられる商品があるのかも知れません。或る季節には欠かせない料理というものも当然あるでしょう。日本なら、例えばお雑煮、に始まって、筍ご飯、木の芽あえ、初鰹、など数え上げればキリがありませんね。私達がそういうもののスペイン版を知らないから気がつかないだけなのかも知れません。

私達が見てもハッキリ季節を感じられるのは果物屋の店頭。

果物も、日本ではハウス栽培のものや輸入品が数多く並ぶので、必ずしも季節感が濃い商品とは言えないかもしれませんが、いい品物が安い値段で出回る、いわゆる旬はやはりハッキリしてますね。それはスペインでもおなじです。

スペインで旬を感じられるものを並べてみると、まず4～5月の苺。少し遅れてチェリー、夏のメロンと西瓜。そして秋になると写真の柿。オレンジやリンゴは周年切れ目なく並んでいるので季節を感じることは出来ません。

ただ、オレンジに関してはやはり晩秋・初冬になると地場モノのいいのが安くなってさすがにオレンジの国、ということのを再認識します。

さて、柿、ですが、これはもう何回もお話したので写真も含めてご記憶の方も多いと思いますが、私達にとってはそのマンマ日本の味として貴重な食べ物です。





左の次郎柿に良く似たものはシャロニ sharoni といって売られています。次郎柿のようにやや硬めの歯ざわりで、味もそっくりです。

そして右側、ラベルの KAKI という字が読み取れるでしょうか？ その通り「カキ」と呼ばれている柿です。料理素材の本に出ている写真では「甲州百目」というのに似ていますが、甲州百目が渋柿なのに反してこれは甘柿です。味は富有柿に似た感じ。この二つは10月頃から出回り始めて12月に入った今、出盛りと言っていいでしょう。どちらも似たような値段で、キロ当たり安値1ユーロ前後から、高値2ユーロ前後ぐらい。オレンジやリンゴはいつでもありますから、この時期になるとどうしても

この kaki に手を出すことが多くなります。

和西辞典で「柿」を引くと caqui となっています。この音は kaki に等しいので、要するにスペイン語には「柿」を意味する単語はない、柿という果物は元々なかったのだと思います。多分、日本人が持ち込んだ日本の原種がたまたま風土にぴったり合

って、おいしい柿が出来たのでしょう。

また sharoni の方はどの西和辞典を引いても出ていません。多分農園の名前か販売元がつけた商標なんだと思います。果物の種類としてはやはり caqui でしょう。同じく日本語がそのまま定着しているものに「鮓」がありますが、勝手に一人歩きして訳がわからないオカシな進化をしちゃった sushi なんかより、この kaki のほうがよっぽど日本の味を正確に伝えています。





もう一つ、日本では冬の味覚とされているものがこれ。アンコウです。もっともコレはアンコウの下アゴだけですけどね。スペインの人たちはアンコウ rape(ラペ) が大好き、魚屋の店頭には一年中並べられています。

でも、私達にとって一尾丸ごとはそのボリュームから言ってチョット手が出ません。肝は肝だけで、身は身だけでも売っていますが、身だけのものは初めっから手を出す気にはなれず、肝は喉から手が出るほど欲しいんですが、二人そろってハイコレステロールなので、ぐっと我慢して横目でにらんでパス。日本で食べていたアンキモは旨かったなー。やろうと思えばいつでも出来るんだけど・・・、ヤッパリ我慢。

それに引き替え、アラなら何の毒にもなりません。頭だけ売っていたら買おう、といていたんですが、たまたま頭が残っている時は、既に他のものを買ってしまっていたりでなかなかタイミングが合いませんでした。この間、例のマグロ屋フェルナンドの店にマグロを買いに行ったんですがいいのがなかったので、周りの店で他の魚を物色していてコレを見つけました。このアラこれだけで1キロ4ユーロ。しかも頭のうちでも一番旨いゼラチンたっぷりの下アゴだけという願ってもないもの。

まず、三分の一はごく薄味でサッと煮て、冷やした白をやりながらしゃぶります。焼酎でもあれば申し分なしですが、ないものねだりはしません。残りは香味野菜を手当たりしだいぶち込んでじっくり煮込み、濾してから米を加えて更に煮るとアロス・ブランコ arroz blanco(白い米) の出来上がり。何のこたーない鮫鱈鍋の後の雑炊とおんなじですが、旨けりゃ名前なんて何でもいいでしょう・・・。\*\*\*

---

## 「バザール」の巻

---

既に日本語になっているバザーはチャリティーのためにやるのが一般的ですね。西和辞典ではバザール bazar (英語綴りは bazaar)、中東諸国の市場の意味、元はペルシャ語となっています。そういえば「ペルシャの市場」という曲がありますね。前に、ベナルマデナにいた時トド todo の話をしたことがありますがお憶えておいでですか？ 日本の百均のような店で全部(トド)いくらですよという表看板の店です。実際には全商品均一価格ではなくて、モノにより値段にはかなりの幅があるんですが、60銭(0.6ユーロ)の品物が圧倒的に多い。以前は todo desde 100 peseta トド・デスデ100ペセタ=全部百ペセタから、と言っていたようです。

百均との共通点はいずれも安物であること、モノによっては稀に10ユーロを超えるような商品もありますが安物であることに変わりはありません。しかし、私達のような浮き草にはトドモ便利な店で、どうせ使い捨て、一時しのぎ的に買うのですから、高いモノは買いたくないという人間にはぴったりきます。その代わり、持っているコトに満足を感じる、なんて代物であるわけはありません。とにかく当座の役に立てばいい、とか、すぐに使い切ってしまう消耗品は殆ど此処で買っています。

長く使うものはいい品物を買うんだヨと子供の頃散々言い聞かせてきたnにはあきれられていますが、どうせこの先何十年と使えるわけじゃありませんからね。

その、毎度お世話になっているトドですが、この町ではトドという看板は全く見えません。此処での看板はどの店も全て“BAZAR”という言葉を使っています。店の性格はトドと全く同じ、とにかく安い、ということがウリの店なのに看板は前の町と全く違うのです。日本なら全国津々浦々「百均」で通用しますよね。

何故だろうと暫くは頭をひねっていましたが、そういうバザールの何軒かに足を運んでいるうちに前の町では見られなかったある共通点に気がつきました。店主の顔つきです。どの店もどの店もレジの中に見えるのは海の向こうアフリカ北端の国出身らしい顔です。前の町ではなかったことです。



ご覧の通りバザール、バザール、バザールです。この単語はやっぱりイスラムの気配が色濃く感じられますねー。売ってるものはもう種々雑多、あらゆる生活用品が揃ってます。全商品が同一価格でないだけに、百均より品物の幅が広いかも知れません。売り場面積も店構えもいろいろ、この店なんかは大きいほうでしょう。小さい店は幅4～5メートル、奥行き14～5メートルなんていうのも沢山あります。大小取り混ぜて私達の普段の行動範囲だけでも20店舗はくだらないんじゃないかと思います。

その中で、これは良く行く店の一つ。「角のM」と私達は呼んでいます。何が「M」かというとな海を挟んだ向かい側、スペインとは歴史の上でも切っても切れない因縁のある国モロッコ Morocco、スペイン語ではマルエコス Marruecos のM。カアディスへ引っ越してすぐの頃は、バザールはモロッコ人 marroqui(マロキ)の独占かとも思ったくらいMの店ばかり目につきました。そのうち私達の行動半径が少しずつ広がってくるとMばかりではなくアノ「C」さんの店も結構あることに気がつきました。やっぱりカノ民族の商魂は「たくましい」の一語に尽きます。この国に元々根を張っているイスラムの縄張りにまで食い込んでしまうんですからね。



BAZAR ORIENTE の看板が見えるでしょう、これがまさしく「東洋」の商人代表「C」さんのバザール。百貨商行とでも言いたいところでしょうが、看板は一応 BAZAR。

この一角は昼でも光量不足でこの角度しか看板が撮れないので店の中の様子が分かりませんが、店内は間口が狭く奥行きが深い、この商売には向いている形です。入り口のレジに一人置いとけば商売が出来ますからね。

私達が始めてこの店に入った時はレジ付近に三人のCさんがいましたが、私達が店内を物色している間、その三人が入れ替わり立ち替わり私達の様子を見に来るんです。

さりげなく、ではなくて、明らかにお前達を見に来たゾ、という凝視です。アノ切れ長な目でジーっとです。これにはマイりましたねー。一体どういうつもりなんでしょうかネー。店内には他の客もいるんですよ。日本人がそんなに珍しいかー？ウーン、そう言えば、確かにそうかもしれない。こんなスペインのハズレの町で百均を漁っているハポネスは多分私達以外はいっこない。ごくたまに来る日本人観光客もまさかこの町で百均めぐりなんて考えないでしょう。そこまでは解るとしても「気の弱い」私達はアノ凝視には耐えられない。で、この店はソレっきり。





バザールの後の語が夫々の店の固有名詞。左上 TETUAN はモロッコの都市名。右上は勿論ここの州名(英語綴りでは Andalusia)。左下 MUNDIAL は「世界の」という形容詞。右下 SUPERBARATO スーパーバラートは超安値、100 ペセタは約0.6ユーロ。モロッコ人断然優位のこの業界にCさんが食い込んでいる比率は約2~3割、そしてこの4軒のバザールの中に丁度その比率どおり、Cさんの店が一軒あるんですがどれだと思いますか？ キャバレーというものがあつた当時をご存知の方はすぐハハンと思うでしょうが、新世界とか大世界とかいう店が(良くは知りませんが)大抵どの町にもあつたようですね。日本のあの業界もやはりCさん経営が多かつた。今はソレと同列の店名のC料理店がスペイン中に散らばっているといつても過言ではないはず。世界を(平和的に)征服しようという意気込みでしょうか。この近くにも

そのものズバリ Gran Mundo=グラン・ムンド=大世界という店があります。  
ソレニシテモ、あのワニ目で睨むような凝視・ガン飛ばしはナントカしてもらいたい  
ものです。数多い中には感じのいいCさんの店もないわけではないのに・・・。  
それに較べるとMさんの方は、顔つきから言うとかなりブッソーなのに私達には愛想  
がいい。ソレは必ずしも私達をハポネスと認識してではなく、或る店では(Nに)フィ  
リピーナ?と聞いたり、あろう事かインドネシア?なんて聞いたりしながらも極めて  
友好的な雰囲気です。

最初の写真の店に(顔は濃いのに)ちょっとウスイ感じのニーちゃんがありますが、私達  
を見るとにっこりして必ず「ニーハオ」と言うんです。その内レジのオッサンも負け  
ずに「ニーハオ」というようになっちゃいました。チガウ違う、ハポネスだ、コンニ  
チワだよ、と言うとその時はニヤニヤしてますが、次に行くと又「ニーハオ」です。  
私達がホントニ商売敵のCだと思ってそう言うのか、ソウだとしたら随分おおらかで  
すよね。CだったらMの店になんか買いに行くわけもないのにナニ考えてんだか。  
それともオチョコられてんのかな? でもガン飛ばされるよりはマシだナー。\*\*\*



師走も半ばになりました。日本の皆さんは年賀状書きが忙しい時期だと思います。  
申し訳ありませんが、私達からの年賀状はこの長い手紙で代えさせていただきます。  
その代わりと言うのもヘンですが、暮れも年明けも休みなく更新するつもりです。  
スペインでは年賀状の特別配達など勿論ありませんし、クリスマスから1月6日の公  
現祭までは、どこでも心此処にあらずです。この期間に郵便物が無事届くのを期待す  
る方が無理というもの。今迄にも頂いていながら届かず、私達もソレと知らずに失礼  
してしまった例があります。私達には通信手段はメールしかないとお考えください。  
12月の飛び石連休も前半はぱっとしない天気でしたが、後半はどうやら持ち直した  
ような気配です。このまま冬の安定した天気になってくれるといいんですが・・・。  
日本もそろそろ冬本番だと思います、どうぞ風邪など召さぬよう元気に冬を乗り切っ  
てください。ではまた来週。

---